

市の人口と世帯	※()内はうち外国人
2014(平成26)年1月末現在	
総人口	322,483 (2,466)
男	155,760 (1,354)
女	166,723 (1,112)
世帯数	142,195 (1,354)

発行 那覇市
編集 秘書広報課 ☎862-9942
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
印刷 光文堂コミュニケーションズ(株)
配布 那覇市シルバー人材センター

みんなで団結! 高まる防災力!

～大震災から3年、その教訓を胸に～

未曾有の大震災となった「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」。
被災者だけでなく、私たちにも深く消えない傷痕を残した大震災から
今月で3年が経過します。あの時の記憶は、いつまでも胸に刻まれて
います。

本市では現在、あの震災を教訓に、さまざまな防災・減災対策を
行っています。今回は、その中でも代表的な事例をご紹介します。



災害時応援協定

東日本大震災があまりに広域的な大
災害であったことを教訓に、本市では浦
添市や南風原町、西原町の近隣の市町村
をはじめ、姉妹都市の日南市(宮崎県)
や川崎市(神奈川県)のほか、宇治市(京
都府)、高知市(高知県)などの中核市
41市とも「災害時相互応援協定」を締
結いたしました。これは、協定締結市の
いずれかが被災した場合、被災していな
い市が相互に応援協力し、被災市への食
糧や資機材の提供などの災害応急対策、
災害からの復旧・復興を円滑に遂行する
ことを目的とした協定です。

また、公的機関以外にも、民間企業・
団体とも応援協定を締結いたしました。
東日本大震災の際、被災者への情報提供
に効果を発揮した例を受け、市内にある
コミュニティFM2局と「放送要請に関す
る協定」を締結。避難所のライフライン

津波緊急一時避難施設

東日本大震災でお亡くなりになった方
の死因は、92.4%が「溺死」となってい
ます(警察庁平成23年資料)。あの
震災で改めて津波の恐ろしさを思い知ら
されました。沖縄県の津波浸水予測によ
りますと、沖縄本島南東沖で大地震が
発生した場合、那覇市に最大遡上高11メ
ートル強の津波が到達するとされています。
そのことから、本市では、市内の海岸・
河川沿いなどの低海拔地域を中心に「津
波緊急一時避難施設」の確保や市内各地
の「海抜表示」に努めています。

「津波緊急一時避難施設」は、市内に「大
津波警報」が発表された場合に限り、市
民が早急に避難できるように、建物所有者
と市が協定を締結し、その建物を一時避
難施設として指定しています。現在、「那
覇中央郵便局」や「とまりんアネックス
ビル」、「沖縄セルラースタジアム(内野席
上層部)」など74施設86棟が指定を受け
ています。
また、「海抜表示」は、お住まいや近

確保のためにLPガスとガス器具の供給を
行う「LPガスの供給に関する協定」、「災
害時に係る情報発信等に関する協定」
も、それぞれ関係団体と締結しました。
さらに、「災害時一時避難施設協定」も
新たに関係団体と締結し、観光客など災
害時には帰宅困難となる方々の避難場所
の確保にも努めています。

本市では、このように、多様な災害時
応援協定(30関連以上)を、さまざま
な団体と締結し、
もしもの時のため
に、市の防災力を
高めています。



▲「一人 動き 動き」のチムグループ

隣地域の海面からの高さを示しており、
市内の電信柱をはじめ児童館・公民館な
どの公共施設、モノレールの各駅、コンビニ
エンスストアなどで表示を行っています。
ぜひ、平常時より「津波緊急一時避難
施設」の場所や「海抜表示」を確認し、
いざという時に備えましょう。
※市ホームページにある「那覇市防災
マップ(左上)」「防災安全情報(内)」
からも確認可能



防災行政無線

市では、これまでに津波の恐
れがある海岸・河川沿い、崖崩
れの危険性のある急傾斜地を中
心に、「防災行政無線」の44基
の「屋外拡声子局」を整備し
ています。

防災行政無線は、災害発生
時などの緊急時に、気象警報や
避難勧告などの災害関連情報
を市民のみならずにお伝えする
ものです。市役所内の「親局」
から送信した情報は、市内に設
置された「屋外拡声子局」で
受信され、スピーカーからのサ
イレンや音声でみなさまに情報
をお伝えします。

さらに平成25年度は、沖縄
振興特別推進交付金を活用し、
市内の小中学校を中心に、新た
に「53基」の「屋外拡声子局」
を設置しました。このように、
災害情報が広範囲に伝わる
取り組みも行っています。



▲親局(市役所本庁舎5階)



▲屋外拡声子局

無線電波

サイレンが聞こえたら...

- テレビ、ラジオ等で最新の情報を入手し、あわてずに行動
- 身の危険を感じたら、迷わずに指定避難場所へ避難

持ち出し品の準備!

防災・減災対策につきましては、どこまでやれば、
どれだけやれば万全だということはありません。市では、
今後ともあらゆる災害を想定し、市民のみならず
の安心・安全な生活を守るよう、公的機関だけでなく
民間企業・団体のみならずと連携し、様々な施策を
展開してまいります。

市民のみならずも防災・減災の基本は、自分の生命
は自分で守る「自助」の精神であることを認識し、日
頃から自分でできる防災対策を行いましょ。

持ち出し品 参考リスト

- 懐中電灯 ● ラジオ ● マスク
- ベル(助けを呼ぶため)
- 飲料水など ● レトルト食品 ● 缶詰
- 丈夫な靴



主な紙面

● みんなで団結! 高まる防災力! ～大震災から3年、その教訓を胸に～	1
● ヘルス・トリビュン	2
● ほけんインフォメーション	3
● 毎月20日は県民交通事故0の日	4
● 環境トピック/その他	5
● ニュース・ダイジェスト	12

お問い合わせ
総務課 市民防災室 ☎861-1102